

令和5年度第2回多賀城市子ども・子育て会議録

□日 時 令和6年1月30日（火） 午前10時から午後11時40分まで

□場 所 多賀城市役所 6階 601 602会議室

□出席者（9名）

磯部裕子委員（副会長）、照井洋美委員、村上秀典委員、中鉢義徳委員
市岡良庸委員、中里和裕委員、佐々木絵美委員、富田善信委員、伊藤光子委員

□欠席者（5名）

増子正委員（会長）、伊藤真美委員、黒川恵子委員、小野敬弘委員、横山好美委員

□事務局

萱場保健福祉部長、柴田保健福祉部次長兼社会福祉課長、小林子ども家庭課長
今野介護・障害福祉課長、麦嶋教育委員会事務局次長兼教育総務課長
佐藤教育委員会事務局学校教育監、水越生涯学習課長
菊地子ども政策課長、後藤子ども政策課長補佐兼子ども政策係長、水越幼保支援係長
高橋子育て支援係長、佐々木子ども政策課主査、斎藤子ども政策課主事

□次 第

1 開会

2 部長挨拶

3 委員紹介

4 会長・副会長の選出

5 議事

報告事項

(1) 特定教育・保育施設等の利用定員について

(2) こども未来戦略等について

(3) 令和6年度の市の取組みについて

6 その他

7 閉会

1～3 開会、部長挨拶、委員紹介

事務局により進行

4 会長・副会長の選出

事務局により進行

委員互選により増子委員（会長）、磯部委員（副会長）を選出

※増子委員は会議後に承認確認済み

5 議事

報告事項

(1) 特定教育・保育施設等の利用定員について

事務局：資料2により菊地子ども政策課長から説明した。

副会長：ありがとうございました。ただいまの「特定教育・保育施設等の利用定員について」委員の皆さまから何か御意見や御質問等はございませんか。

委員：令和5年10月1日時点の待機児童数（実数）が87名となっているが、現段階で令和6年4月時点の状況が見えてくる頃と思うが、待機児童についてはどのような状況となっているか。

事務局：申込者数は令和5年度よりも増加しております。本市の未就学児数はおよそ3,000人いるが、子ども・子育て支援事業計画における推計よりも実績が200人少ない状況となっており、計画値よりもこどもの数が減るスピードが加速化している。こどもの数が減少している一方で、保育所の利用申込み件数は、増加している状況である。増加している年代は、特に1歳児が非常に多くなっている。令和6年度の受付は終了しているが、令和6年3月末まで転勤等の動きがあるため、それまでしっかり入所調整を行い、可能な限り、待機児童を減らしてまいりたいと考えております。

副会長：ありがとうございます。その他、委員の皆様からありますでしょうか。
（質疑等なし）

(2) こども未来戦略等について

副会長：それでは、次に報告事項の(2)「こども未来戦略等について」事務局から説明願います。

事務局：資料3により菊地子ども政策課長から説明した。

副会長：ありがとうございました。ただいまの「こども未来戦略等について」委員の皆さまから何か御質問等はございませんか。
（質疑等なし）

(3) 令和6年度の市の取組みについて

副会長：それでは、次に報告事項の(3)「令和6年度の市の取組みについて」事務局から説明願います。

事務局：資料4により後藤子ども政策課長補佐、水越幼保支援係長、高橋子育て支援係長、小林子ども家庭課長、今野介護・障害福祉課長、佐藤学校教育監、水越生涯学習課長より説明した。

副会長：ありがとうございました。ただいまの「令和6年度の市の取組みについて」委員の皆さまから何か御質問等はございませんか。
（質疑等なし）

副会長：ありがとうございます。その都度、お気づきのことがあれば事務局まで問い合わせいただくということをお願いしたい。それでは、報告事項は以上で終了させていただきますが、委員の皆様から本日の事務局からの説明に関する御意見や御質問、あるいは御感想等をお願いいたします。

委員：本日は様々なお話を伺ったが、小学校でも様々な課題を抱えている。不登校やいじめ、学力や体力の低下、こういった課題に向けて職員一丸となって現在取り組んでいるところだが、一番の課題は学校の制度自体のフレームが古くなっているということである。良質な労働者が大量に必要な時代であれば、今の学校の制度というのは非常に良かったのだが、今はテクノロジーも進展し、社会の変化も激しくなってきたことにより、一人一人に、よりクローズアップされるそういう時代になっている。その中で、こどもたちをどう

育てて行くのかということについては、学校だけの機能では不十分な状況となっている。ここにお集まりの皆様とも様々な連携をさせていただきながら取り組んでいきたい。特に、幼保関係の皆様と、本日の資料にもあったが小一の壁というものがある。学校としては、小学校であっても、学びはずっと幼保の頃から継続し変わらないが、学校職員の中には、例えば休み時間は遊び、授業が勉強、学びは勉強という意識があり、実は、休み時間を含めた学校教育活動全てが、学びの時間である。そういった意識変革といったところも進めていかないといけないと今日は感じた。より充実した学校教育活動になるよう今後ともよろしくお願ひしたい。

委員：本日は各課の様々な取組について御説明いただき、その一つ一つが、常に学校のこどもたち、そしてその保護者の皆さまを支えるものとなっているのだと改めて感じた。本校は今年度からコミュニティスクールへ移行し、佐々木委員にも学校評議会の委員として様々な支援をいただいている。今、学校で目指していることは、学校における最小のコミュニティは教室の中にある班や係だが、この最小のコミュニティから丁寧にこどもたちの関係性が築けるよう取り組んでいる。様々なこどもがおり、様々な家庭がある。不登校や発達の特性があつて、こどもたちと上手にコミュニケーションが取れないこどもたちもいる。このこどもたち個々が持つ力の支援だけではなく、それを支える周囲のこどもたちを育てるということ、今重要に考えているところである。宮城県では志教育に取り組んでいるが、これはこどもたちが社会の中で役割を持ち、その役割を果たすということを夢や志として育てていく事業である。本校でも、これを核にし、こどもたち同士が支え、助け合う関係性を重視しているところである。そしてこれが、学級、学年、学校に広がり、そしてコミュニティスクールになったことで、これを地域に広げ、それを多賀城市、宮城県といった形で広めていきたいと考えている。将来的にはこどもたちがそれぞれに支え合えるコミュニティづくりを実現できれば良いと考えており、そのためにも今後も様々な角度から、関係部署の皆様と連携しながら、学校として取り組んでまいりたい。

委員：放課後子ども教室のコーディネーターのほか、協働活動の推進員もやっている。その2つのボランティアに参加してだが、教員や親以外の地域のボランティアのおばちゃんたちに見せる顔が大変にこやかで良い顔していると感じている。それが放課後子ども教室に来るこどもたちも同じだが、このような活動は必要なのだと改めて感じた1年だった。楽しみにしてくれるこどもがおり、また今度いつ来てくれるのかといった声を中学生から聞くこともできて、本当に良い活動だなと感じている。また、こども未来戦略についてだが、私には成人したこどもが3人おり、本日説明があつたように未来に向けて希望が持てないということが、自分のこどもと話していても伺える。こども未来戦略を推進いただき、こどもや若者たちが未来に希望を持って、結婚したくないという声もあるが、良いことを伝えていけるような取組みを進めていけたら嬉しいと感じる。

委員：私は、以前教員をしており、コロナ禍の直前に退職となったが、コロナ禍に入る前までは地域と良い関係性を構築できていた。ところが、コロナ禍で地域との繋がりが無くなってしまった時期があつた。それが今復活し、その組織は地域だけではなく、市全体から応援をいただき新たな組織として芽吹き始めている。様々な取組みを関係機関と連携しながら推進することに意義があり、嬉しく感じた。私は今、相談業務を担っており、令和5年度は現時点で10件の相談が来ていた。相談方法は電話による相談が5件、対面による相

談が5件となっており、相談者はこどもの母親からが9件、こどもの祖母からが1件だった。相談内容は不登校が9件、いじめが1件である。不登校児童がいる家庭では、以前は学校に行かせたいと相談されていたが、最近ではこどもが家にいるので、こどもとどのように接したら良いのか分からない、という相談が多くなってきている。高校生のこどもがいる家庭からは、こどもが勉強でつまずいてしまい、学校を辞めたいと言っている、という内容の相談が増えている。不登校にも様々な種類（要因）があり、自分だけでは解決できないことも多いので、教育総務課やSSW（スクールソーシャルワーカー）等につなぎ、様々な関係機関と連携しながら、少しでも力になれば良いと感じている。

委員：こども未来戦略やこども大綱、そして市の取組みをお聞きし、事業者や事業主の役割や関わりについて、大変重いものと感じ、まだまだ応えることができていないと感じた。2023年度は、キャリアセミナーや職場体験学習を開催するにあたり、新たに我々協議会の会員に向け事前アンケートを取り、協力いただける企業10社からお答えいただくなどの仕掛け作りが行われたほか、夏には菊地子ども政策課長にも来ていただき、市の取組みについて事業主に知っていただく場を設けるなどを行ったが、今後益々、事業主に対して市の考えや施策について知っていただくことが重要ではないかと感じる。関係部署の皆さまにご相談しながら、よりよい関わり方ができるよう今後も努めていきたい。

委員：本日は貴重な会議に出席させていただきありがとうございます。私は高校1年生と小学4年生の子がおり、放課後児童クラブを利用している。私自身、家庭はトラブルもなく、子育ても順調と感じていたが、本日の資料や説明を伺った中で、一つの家庭という立場でしか物事を捉えられていなかったことに気付いた。様々な立場の方や、家庭の環境があり、もっと広い視点で物事を考えて、そして政策に反映されているというところに感動した。また地域と学校の繋がりが大切であるというところも、改めて実感させていただいた。私は会社員として勤めているが、人事労務の担当として結婚や出産の手続きに立ち会う際に、こども未来戦略にあったような出産や子育ての費用や男性の育休など、様々な難しさを感じるがあった。こども未来戦略の取組みが広く、反映され、暮らしやすい社会になっていけたらと感じる。

委員：子育てに関する様々な情報を提供いただきありがとうございます。男性の育休促進は女性の気持ちの理解につながり、とても良いことではないかと感じた。職場は、やはり子育てに冷たいのではないか。こどもを朝7時から夜7時までの12時間預かることもある。そういう子は県や市の職員のこどもなので、自治体が率先して、男性の育休や時短を取らせるなど、子育て家庭に優しい職場、子育てに優しい気持ちがある職場を作っていただきたい。その一方で、私の施設でも育休や時短制度を利用する職員がいるが、どうしてもその分常勤職員が負担を抱えるようになる。時短を取得する職員の陰口を叩くことがあるような職場にはしたくない。市の取組みで保育体制の強化に関する補助事業を実施しているが、この事業を活用し、卒園したお母さん方を雇用し、保育業務等の負担を減らすことができている。この市の補助金は大変助かっている。子育て家庭内でギスギスした雰囲気にならないよう職場を改善していかなければいけない。また、子育てしづらい社会がこどもを減らしているのではないかを感じる。特にこの辺は土地も高く、4,000～5,000万円のローンを組むことになり共働きせざるを得ない。それに対して、私どももお子さんを受け入れ、子育て世帯を支援するが、市にも子育て世帯を応援するような政策をお願い

いしたい。

委員：保育事業を行っているが、未就学児の基本的な生活習慣を確立するため、早寝、早起き、朝ごはんや、ルルブル（しっかり寝ル、きちんと食ベル、よく遊ぶ、健やかに伸びル）でよく成長することを、事あるごとに保護者の方へ伝えていきたいと感じた。川島隆太氏が、保護者が夜遅くに未就学児を連れて歩くようなことは虐待であると言っていた。これは、こどもは早く寝せて、朝早く起き、太陽をよく浴びなさいという意味である。また、小学校入学後は、地域に溶け込むということで子ども会活動をしっかりとやっていただき、地域の方とともに活性化していくことが大切である。このこどもたちが中学校、高校生になるとジュニアリーダーとなり、地域のために必ず役立つ人間に育つ。大学生、社会人になれば今度はシニアリーダーとして活躍することとなり、宮城県子ども会育成連合会とも連携し、ぜひ小学校、中学校、高校を通じ、遊びを中心に仲間づくりをしていただきたい。今、多賀城市ではコミュニティスクールの取組みを始めているが、これはまちづくりに一番大切なことと感じる。地域と学校、そして家庭をつなげるよう、市主催で年3回、研修会を開き、活動の内容が地域や学校、家庭のためになることが理解できる研修会を開いて欲しいと思う。今、私立高校も定員割れしているところがあり、全員が高校や大学に入れる時代が来るようになる。国を挙げて取り組んでいるところだが、少子化に歯止めをかけられるよう何とか、多賀城市のこどもが減少しないようお願いしたい。

副会長：ありがとうございました。皆さま貴重な意見ありがとうございました。それぞれの立場ならではの御意見であり、事務局にはぜひ受け止めていただき、次の政策に反映できればと感じます。

6 その他

事務局より進行
(特になし)

7 閉会

事務局により進行

以上